

福井工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	国語
科目基礎情報						
科目番号	0099		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	物質工学科		対象学年	2		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	大修館書店「国語」					
担当教員	伊勢 光					
到達目標						
(1) 日本語によって成り立つ文化の所産と過去の時代の日本語とに関心をもち、理解できること。 (2) 文章を正確に読み取り、読み取ったものに対して自らの意見を述べられるようになること。 (3) 「日本語」、「和歌」、「知」、「物語」などの様々な分野について興味を深め、視野を広げること。						
ルーブリック						
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目 1		十分に日本語について関心を持ち、その文化についても理解したうえで自分なりの意見を持ち、それを表現することが出来る。	日本語についての関心を持ち、その文化を理解できる。	日本語に関心が抱けず、その文化が理解できない。		
評価項目 2		十分に文意を読み取り、その内容について性格に自分独自の意見が述べられる。	ある程度意味を読み取り、内容について一応の意見が述べられる。	意味を読み取れず、自分の意見も述べられない。		
評価項目 3		「日本語」「和歌」などに十分に深い興味関心がもて、自己の視野が広がったことを文章、口頭で表現できる。	「日本語」「和歌」などに一定の関心が持て、そこで得られた視野の広がりを表現できる。	「日本語」「和歌」などにまったく関心が持てず、視野の広がりもない。		
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育到達度目標 RC2						
教育方法等						
概要		様々なタイプの文章を読解する。評論文においては筆者の狙いを明確に読み取るとともに、その文章に対して自分の意見を持ち提示できるようになることを目指す。物語文においては場面を正確に読み取り、登場人物の声や思いに耳を澄ませ、そこで感じ取ったことを文章にまとめることを目指す。日本人、日本語が古くから培ってきた言葉の文化を味わい、自らの思考、表現に生かすことを目標とする。				
授業の進め方・方法		授業では本文の正確な読解に努めるとともに、適宜質疑し応答を求める（ひとつの決まった答えがない場合も多い）。本文を踏み台とし、様々な意見を求めつつ進めていく。そして、各単元の終了時にはレポートを課す。その単元で自らが得た知見、論点などを切り口に、意見をまとめる。古文では文法の確認も適宜行うが、あくまで「読む」ことを主軸に、読み取ったことについて「書く」「話す」という方法で進めていく。				
注意点		レポートの割合が大きい。未提出はそのまま原級留置につながるので注意すること。				
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	授業の導入	一年間の授業の見通しを立てられること。		
		2週	現代文学を味わう（1）	村上春樹について説明できること。		
		3週	現代文学を味わう（2）	作家の設定した舞台を正しく把握できること。		
		4週	現代文学を味わう（3）	比喻表現の内実について正しく理解できること。		
		5週	現代文学を味わう（4）	作品を味わい、自分なりに解釈できること。		
		6週	随筆を読む（1）	随筆というジャンルと、その特性について説明できること。		
		7週	随筆を読む（2）	正しく音読でき、流れを把握できること。		
		8週	随筆を読む（3）	助動詞等に気をつけながら、正確に文章の理解ができること。		
	2ndQ	9週	随筆を読む（4）	兼好法師の述べる教訓を理解できること。		
		10週	随筆を読む（5）	『枕草子』の文学的意義について理解できること。		
		11週	随筆を読む（6）	二つの随筆作品について、その差異、特徴について説明できること。		
		12週	漢詩を読む（1）	1年次に習ったことを思い出し、正しく書き下せること。		
		13週	漢詩を読む（2）／社会とつながる文章	漢詩のルールを正しく理解できること。		
		14週	漢詩を読む（3）／社会とつながる文章（2）	時節に応じた手紙を、適切な文章で書けるようになること。		
		15週	前期まとめ	これまでの授業を振り返り、正しくアウトプットできること。		
		16週	振り返り	自分のこれまでの学習を見つめ、間違っていて覚えていたことを正せること。		
後期	3rdQ	1週	ことばについて知る（1）	普段の言語生活について見つめなおし、その生活について言語化できること。		
		2週	ことばについて知る（2）	言語と思想の関係性について説明できること。		
		3週	ことばについて知る（3）	日本語と外国語のことばの違いが、考え方の違いにも直結していると具体例を用いて説明できること。		
		4週	ことばについて知る（4）	『土佐日記』から、当時の男女のおかれた言語生活について説明できること。		
		5週	ことばについて知る（5）	『土佐日記』のことばのもつ諸謔性について、正しく把握できること。		

		6週	「学び」とは何か ―『論語』から（１）	『論語』について理解するとともに、その内容を正しく読み下せること。
		7週	「学び」とは何か ―『論語』から（２）	「学ぶ」とは何か、「習う」との違いについて説明できること。
		8週	「学び」とは何か ―『論語』から（３）	「知る」とは何か、説明できること。
	4thQ	9週	評論を読む（１）	白とは単に色ではなく、感受性であることを理解、説明できること。
		10週	評論を読む（２）	推敲について理解、説明できること。
		11週	評論を読む（３）	本番というものの持つ力について自らの体験と絡めて説明できること。
		12週	物語に親しむ（１）	人物関係を整理し、人物が置かれている特異な立場について理解できるようになること。
		13週	物語に親しむ（２）	助動詞等に気をつけ、正しく内容の訳ができること。
		14週	物語に親しむ（３）	当時の宮中の状況、帝の置かれた状況について正しく理解、説明できること。
		15週	物語に親しむ（４）	光源氏誕生までの人物の心理、経緯について整理し、筋立てを味わうことができること。
		16週	後期まとめ	これまで学んできたことを整理し、定着させること。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	論理的な文章(論説や評論)の構成や展開を的確にとらえ、要約できる。	3	
				論理的な文章(論説や評論)に表された考えに対して、その論拠の妥当性の判断を踏まえて自分の意見を述べることができる。	3	
				文学的な文章(小説や随筆)に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り、自分の意見を述べることができる。	3	
				常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。	3	
				類義語・対義語を思考や表現に活用できる。	3	
				社会生活で使われている故事成語・慣用句の意味や内容を説明できる。	3	
				専門の分野に関する用語を思考や表現に活用できる。	3	
				実用的な文章(手紙・メール)を、相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。	3	
				報告・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットから適切な情報を収集できる。	3	
				収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。	3	
				報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。	3	
				作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。	3	
				新たな発想や他者の視点の理解に努め、自分の思いや考えを整理するための手法を実践できる。	3	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	45	45	0	10	0	0	100
基礎的能力	45	45	0	10	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0